ナビタスビジョン、9月24日㈭ウェビナー開催

リモートで商談システムを構築

ナビタスビジョン㈱（横浜市港北区新横浜、辻谷潤一社長、☎045・710・0584）は現在、本社と同社技術センター（港区新羽町）による遠隔操作で、商談体制を構築している。

技術センターにはショールームを開設。ラベル検査装置「NaviLab-HSY」や大判検版システム「NaviScan-LNC」など実機とパネルを常設しており、担当者がデモンストレーションを行うほか、本社への訪問顧客やオンラインツールでの商談に役立てている。

ショールームには1台のカメラを設置しており、デモンストレーションを生中継できる。カメラワークによっては、検査装置を稼働させる手順やラベルの搬送部、検査結果といった顧客の見たい箇所の要望に応えられるという。

なお同社は9月24日㈭、新たに確立した商談体制を生かし、ウェビナー「ナビタスビジョンフェア2020」を開催。2部構成の第1部では「導入台数1200台の実績 お客様に評価されるナビタスビジョン検査技術の『秘密』とは」と題し、検査ソリューションの活用事例を踏まえ、独自の技術やユーザーが評価する理由を示す。

第2部では操作性の改善が図られた画像検査システム「Asmil Vision 3.0」や、RGBの撮像システムによって全数かつ任意箇所のデルタE計測を可能とした測色技術、AI（人工知能）技術を活用した検査体制など、最新技術を紹介。

500人が定員のウェビナーへの申し込みは、専用ページ（https://www.nvs-one.com/nvswebinar/）から。時間は午前10時から正午まで。参加費は無料。

また同日からは、製品の特徴を動画で閲覧できる特設ウェブサイト「INNOVATION WORLD」を開設する予定。動画を中心としたバーチャル機器展示が見どころという。

◇◇◇

新たな取り組みを推進する辻谷社長との一問一答は以下の通り。

――オンラインツールを活用した商談やウェビナー開催の経緯は

「コロナ禍でお客さまとの対面を減らす必要がある厳しい状況と向き合いながら、ビジネスを継続させる方法を模索した。リアルな展示会の中止が相次ぎ、思うような販促活動が難しい中、今は新技術の開発・確立を目指す時だと捉えたほか、営業面では時流に乗ったオンライン・ウェブツールを有効活用している」

「ナビタスビジョンフェア2020では、当社が掲げる〝オンリーワンの技術開発〟にこだわり〝目視検査ゼロを目指す〟ビジョンを明確にお知らせしたい」

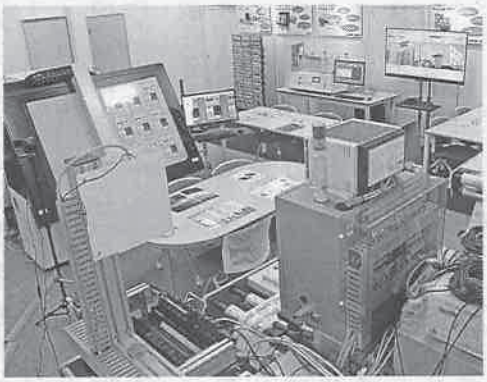
――新たな取り組みから実感する手ごたえは

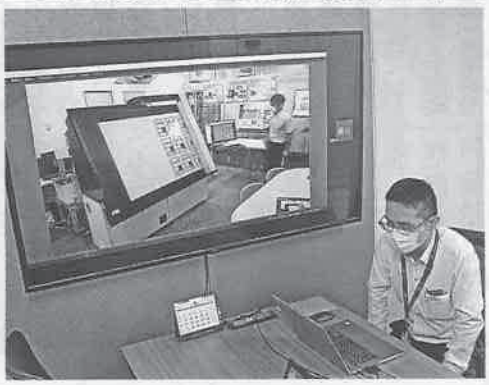
「オンラインツールを介した商談では、生中継動画を通じて検査装置の性能を理解してもらい成約したケースも増えている。収束後も遠方の国内や海外などで活用できそうだ」

「特設サイトが当社や製品を知ってもらう入り口となるはずだ。ユーザーの要望を応え運用していく」

――今後の方針、総括を

「ソフトもハードも、次なるシステム開発を進めている。コロナ禍の影響で普段取り組めていない仕事が明確になった。ピンチばかりではなく、新たなことへ挑戦するチャンスは大いにあるだろう」





ショールーム（上）と本社をオンラインツールでつなぎ商談が行える